

<リハまる(MR/VR)を用いたリハビリトレーニング>

プロジェクト概要

背景/課題

- ・厚生労働省発表の脳卒中を含む脳血管疾患の治療や経過観察などで通院している患者数は 118 万人と推計されており、うち約 14%(17 万人)が就労世代(20~64 歳)である。
- ・脳血管疾患の治療の先進化が求められる。
- ・脳卒中後の障害の中には、手足の麻痺などの目に見える障害のほか、記憶力の低下や注意力の低下など、一見して分かりづらい障害(高次脳機能障害)があり社会復帰への課題となっている。

事業内容/期待効果

- ・高次脳機能障がい者(注意障がい)に対して、リハまる を活用した治療効果を検証する。
- ・高次脳機能障がい者のリハビリ手段の拡大を図り患者さんに提供する。
- ・検証結果を苦小牧リハビリ研究会で報告し地域で情報を共有する。

事業イメージ(全体像)

